



TOTO



TOTO水環境基金
TOTO Water Environment Fund

2024年度 助成先団体活動報告
2024年4月～2025年3月(第17・18・19回)



TOTO株式会社
(TOTO水環境基金事務局)
<https://jp.toto.com/company/csr/mizukikin/>



(2025年8月発行)

20th
ANNIVERSARY
1974-2024

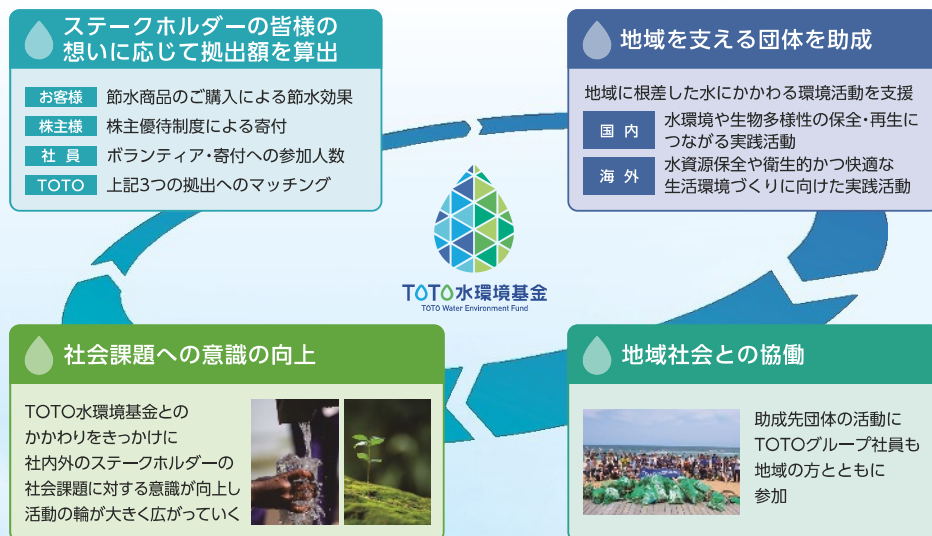


TOTO水環境基金

TOTOグループは、水まわりを中心とした、豊かで快適な生活文化を創造することで、社会の発展に貢献し、世界の人々から信頼される企業を目指しています。

持続可能な社会の実現のためには、企業の事業活動による貢献だけでなく、地域を支える団体の活動が欠かせないと考えています。地域を支える団体と協働で社会課題の解決を目指すために、2005年度に「TOTO水環境基金」を設立し、地域の水と暮らしの関係を見直す継続的な活動を支援しています。

TOTO水環境基金のしくみ



「TOTO水環境基金」のロゴに込めた想い

水源のはじまりを象徴する「しずく」をモチーフに水の大切さを印象づけ、内包される青と緑で描かれた三角形の幾何学模様が、水と環境の密接さと、この取り組みが世界に波及していく様子をデザインしています。水が元来もつ美しさとともに、地球環境の大切さを伝える意図が込められています。

ステークホルダーの皆様の想いに応じて拠出額を算出

助成金は、お客様の節水商品購入による節水効果、株主様の寄付賛同、TOTOグループ社員のボランティア・寄付などの参加人数を金額換算し、TOTOのマッチングにより決定されます。ステークホルダーのかかわりが増すほど助成金が増えていく仕組みです。

地域を支える団体を助成

グループ社員から選出された選考員が「水環境にかかわる課題を共に解決したい」という想いをもって、「地域に根差した活動となりえるか」「一過性の活動ではなく、継続性があるか」という点を中心に選考を行い、助成先団体を採択しています。また、助成先団体のネットワークづくりのために「助成先団体交流会」を毎年開催しています。



©オイスカ

地域社会との協働

助成先団体の活動に、TOTOグループ社員も地域の方とともに参加しています。助成期間終了後も、助成先団体をはじめとする地域の皆様との交流は続き、年々活動の輪が広がっています。



社会課題への意識の向上

TOTO水環境基金とのかかわりをきっかけに、社内外のステークホルダーの社会課題に対する意識が向上することで、活動の輪が大きく広がっていきます。

TOTO水環境基金は 設立20周年を迎えました

ごあいさつ

日頃よりTOTO水環境基金の活動にご理解とご協力をいただいている多くの方々に心より感謝申し上げます。

本基金は、企業だけでは解決できない社会課題を、地域に根差した活動を実施されている団体への支援を通じてともに解決したいという想いのもと、2005年に設立され、おかげさまで20周年を迎えました。

TOTOグループは、水まわりを中心とした、豊かで快適な生活文化を創造することで、社会の発展に貢献し、世界の人々から信頼される企業を目指しています。

そのためには、節水商品の普及をはじめとした事業活動を通じた環境貢献はもちろん、地域社会の一員として、世界中の国や地域で必要とされている社会貢献活動を推進していくことが大切だと考えています。

持続可能な社会の実現のためには、我々企業による貢献だけでなく、地域を支える団体の活動が欠かせません。

この20年間、国内外で水環境保全に取り組む多様な団体の活動を支援させていただきました。その活動内容は、日本国内における生態系保全・環境美化活動から、海外における水資源の保全や衛生的な生活習慣の啓発活動まで多岐にわたります。様々な分野でご尽力されている皆様に、改めて敬意を表します。

TOTO水環境基金が大切にしているのは、TOTOグループ員による協働です。私たちは単に助成金を拠出するだけでなく、グループ員が地域の方々と共に活動に参加しています。助成期間終了後もつながりが続いている団体もあり、社会課題の解決という共通の目標をもち、グループ員と助成先団体が一体となって取り組んでいます。

創立以来、水に深くかわかる企業として、限りある水資源を保全し、次世代につないでいくことは、我々TOTOグループの使命だと考えています。これからも世界中の人々の豊かで快適な未来の実現を目指し、次の10年、20年に向け、皆様との連携をさらに深めながら、本基金の活動をより一層推進してまいります。

引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

TOTO株式会社
代表取締役 社長執行役員
田村 信也

20年間のあゆみ

年	できごと	
2005年	TOTO水環境基金設立	
2007年	TOTO創立90周年事業として、助成総額の増額、助成期間の拡大、活動地域をアジアに拡大し募集	
2009年	活動地域を海外全域に拡大し募集	
2013年	助成総額をステークホルダーの環境貢献実績により算出する仕組みを導入	
2016年	TOTO創立100周年記念事業として、助成総額の増額、助成期間を拡大し助成先団体を募集 第14回フィランソロピー大賞「水と創る企業市民賞」受賞	
2024年	持続可能な水循環の確立に貢献していることが評価され「水循環ACTIVE企業」の認証取得 20周年を機に、今後もより多くの方に活動を知っていただき、継続して発展していくために、想いを込めたロゴを作成	 

これまでの助成状況

回	期 間	金 額	団体数	回	期 間	金 額	団体数
第1回	2005年 10月～2006年 9月	1,090万円	12	第11回	2016年 4月～2017年 3月	1,556万円	24
第2回	2006年 10月～2007年 9月	1,560万円	12	第12回	2017年 4月～2020年 3月	9,531万円	35
第3回	2007年 10月～2010年 9月	8,051万円	29	第13回	2018年 4月～2021年 3月	1,752万円	10
第4回	2008年 10月～2009年 9月	1,200万円	16	第14回	2019年 4月～2022年 3月	2,465万円	10
第5回	2009年 10月～2010年 9月	1,102万円	18	第15回	2020年 4月～2023年 3月	2,656万円	10
第6回	2010年 10月～2011年 9月	751万円	10	第16回	2021年 4月～2024年 3月	2,747万円	12
第7回	2012年 4月～2013年 3月	980万円	16	第17回	2022年 4月～2025年 3月	2,478万円	11
第8回	2013年 4月～2014年 3月	1,007万円	20	第18回	2023年 4月～2026年 3月	2,733万円	13
第9回	2014年 4月～2015年 3月	1,300万円	25	第19回	2024年 4月～2027年 3月	2,760万円	11
第10回	2015年 4月～2016年 3月	1,430万円	22	第20回	2025年 4月～2028年 3月	2,759万円	16

※第3回、第12回は、TOTO創立周年記念事業として助成金を増額。

累計 4億9,908万円 のべ332団体

国内 助成対象 | 地域の水環境や生物多様性の保全・再生につながる実践活動



18カ国
77団体

中国

ネパール

パキスタン

インド

バングラディシュ

ミャンマー

ベトナム

カンボジア

ラオス

フィリピン

インドネシア

東ティモール

スーダン

エチオピア

ウガンダ

ケニア

モザンビーク


エスワティニ

Inset photo: A group of people, including children, standing in front of a large, circular, stone structure, possibly a well or a traditional building.



活動回数


7,917回



ごみ回収量

712,365_{kg}



 環境・衛生
教育参加人数

157,454人




「TOTO水環境基金」は設立20周年を迎えました。

これまで活動を支えていただいた多くの皆さまに心より感謝申し上げます。

私自身が水環境基金と初めて関わったのは2013年のことです。

今でこそ、事務局長をしていますが、当時はある販売拠点で営業をしており、近隣で行われた助成先団体の活動に一参加者として参加したのが始まりでした。参加した動機は、その土地の美味しいものがいただけそう、子どもを遊ばせることが出来るなどで、お恥ずかしなながら水環境基金の趣旨をきちんと理解してではありませんでした。ただ、実際に参加してみて、助成先団体の皆さんの想いを



水環境基金と共同活動

 ボランティア
参加人数

241.211人

うちTOTOグループ社員 **11,960人**



植樹本数

435,738本



設備設置数
(海外のみ)

1,387基


受益者数
 (海外のみ)

240,108人

事務局長 砂川 浩

(TOTO株式会社 執行役員 総務本部長)



助成総額

2,918万円

助成によって団体が実施した活動の成果



助成団体数

18団体



活動回数

1,372回



活動参加人数

14,211人

うちTOTOグループ参加人数 130人



ごみ回収量

28,695kg

保全整備した
面積

40,320㎡

環境・衛生教育
参加人数

20,922人

海外設備設置数
(トイレ・手洗い場・給水タンクなど)

98基

第19回 助成先団体一覧

No.	団体名	プロジェクト名	主な活動地域	ページ
1	小泉ユニバーサルビーチユニット	水環境を整え自然界を保全していくまちづくり ー 海・山・川・ビोटープがある町 ー	宮城県気仙沼市	10
2	海×TECHプロジェクト実行委員会	テクノロジーを用いて海の変化を深く理解し、 海の恵を味わうことができる、次世代の環境学習イベント開催	神奈川県逗子市	11
3	公益財団法人 水島地域環境再生財団	瀬戸内海の守り人 “海ボウズ”育成プロジェクト	岡山県倉敷市	12
4	NPO法人 オン・ザ・ロード	沖縄でのビーチクリーンとアップサイクル体験による 5R普及活動	沖縄県国頭郡	13
5	認定NPO法人 ウォーターエイドジャパン	インド ビハール州 保健センターの水・衛生改善プロジェクト	インド ビハール州 マドバニ県	14
6	公益社団法人 アジア協会アジア友の会	住民主体のごみ管理 〜クリーンでグリーンな地域・学校・水環境のために〜	フィリピン ソルソゴン州	15
7	公益財団法人 オイスカ	ミャンマー中央乾燥地域における 水環境の改善と環境教育	ミャンマー マンダレー地域 ヤマーティン県	16
8	認定NPO法人 難民を助ける会	ウガンダにおける学校の衛生環境整備支援	ウガンダ チクベ県	17
9	認定NPO法人 ホープ・インターナショナル開発機構	私たちが広める! 「トイレの利用と手洗い」	エチオピア 南エチオピア州	18
10	NPO法人 STAND ALIVE	水と衛生環境の保全のための環境衛生式トイレ普及事業	ケニア キスム郡	19
11	Team NAKUSCO (長崎ケニア住血吸虫症制圧大作戦)	NAKUSCO Kichocho Project 〜みんなで作る、水とトイレと村の未来〜	ケニア クワレカウンティ地域	20

第18回(2年目) 助成先団体一覧

No.	団体名	プロジェクト名	主な活動地域	ページ
12	NPO法人 さざなみ	習志野の海を守る会「とりもどせ! ぼくたちの海」	千葉県習志野市	21
13	認定NPO法人 エバーラスティング・ネイチャー	絶滅危惧種であるウミガメ類の 海洋ゴミ誤食調査と普及啓発	小笠原諸島、関東地区	22
14	NPO法人 エー・ビー・シー野外教育センター	子どもたちのウエス作りが別府市の水環境を変えていく!	大分県内	23
15	NPO法人 おおいた環境保全フォーラム	豊かな水環境を目指す 別府湾エココストプロジェクト	大分県大分市、別府市、日出町、 杵築市、臼杵市、津久見市	24

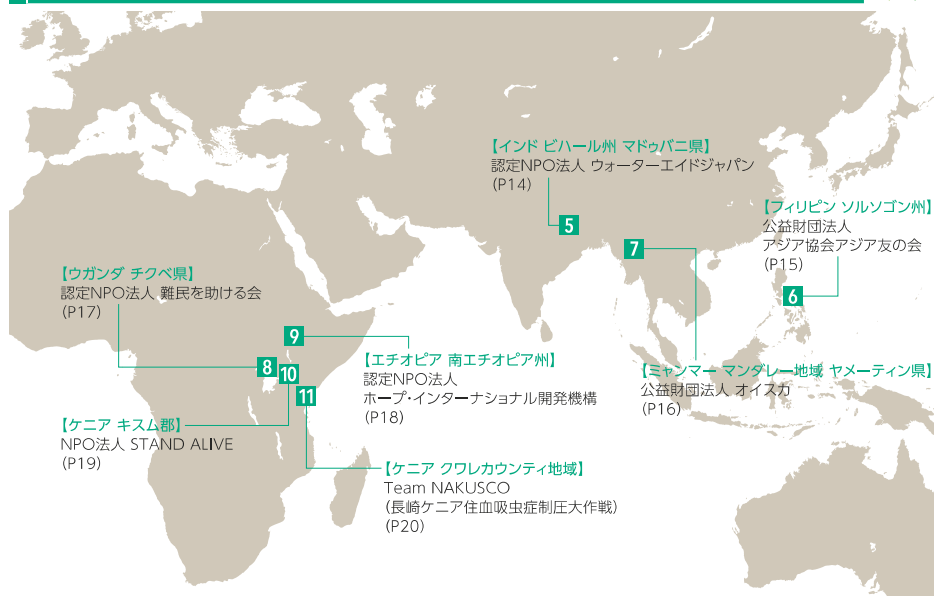
第17回(3年目) 助成先団体一覧

No.	団体名	プロジェクト名	主な活動地域	ページ
16	NPO法人 カラカネイトンボを守る会 あいあい自然ネットワーク	あいの里でトンボを指標に豊かな水環境をつくろう!	北海道札幌市	25
17	認定NPO法人 改革プロジェクト	子どもの意欲を育む環境教育プログラムの展開	福岡県宗像市	26
18	一般社団法人 ふくおかFUN	「海を元気にする海草」アマモ場再生・造成プロジェクト	福岡県 博多湾および、その近海	27

2024年度 助成先団体活動地域(国内)



2024年度 助成先団体活動地域(海外)



1 小泉ユニバーサルビーチユニット

【代表者】 中舘 忠一

当団体は、東日本大震災の津波体験による住民の海離れや建物が全壊し手付かずのままの空き地、県内最大高の防潮堤の有効活用などの課題を少しでも解決に導けるようにと、震災より9年ぶりに小泉海水浴場がオープンしたことをきっかけに地元有志で設立しました。これからも長く住み続けられる町を目標に、世代間交流・自然環境の保護や保全・親水・伝統継承・防災減災などのさまざまな取り組みを行っています。



探鳥会の様子

水環境を整え自然界を保全していくまちづくり — 海・山・川・ビオトープがある町 —

- ◎活動地域 | 宮城県気仙沼市本吉町
- ◎助成期間 | 2年間



プロジェクト内容

小泉地区は、海・山・川・ビオトープが小さな町に全て揃っている珍しい自然豊かな土地です。住民みんなで小泉地区の未来を考えていくために、これまでに取り組んできた行政・他団体を巻き込んだ市民参加型の「各場所のごみ拾い活動」「景観を取り戻す活動」「ごみの調査」「探鳥会」への参加者増を図り、環境保護活動を柱にした住民同士のつながり・地域の活性化を発展させていきます。

実施結果

第18回TOTO水環境基金からの積極的な活動周知PRが、徐々に住民・行政に届いてきています。新規参加者増加はもちろんです。今年は津谷小学校・津谷中学校の総合学習(小学3年生から自分の探求したいテーマを決めて、その活動発表を小学6年生と中学3年生の2回で発表する)の講師として、また発表会へ地域代表として招待されました。小泉地区と津谷地区の海ごみを中心とした清掃活動をしているのは当団体だと周知されてきた証だと思います。年度ごとの成功ラインは越えられたと考えています。

《定量成果》

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	14回	14回
活動参加人数	470人	420人
ごみ回収量	500kg	516kg
保全整備した面積	—	29,700㎡
環境教育参加人数(のべ人数)	—	52人
観察した野鳥数	70羽	80羽

活動に関わった方の声

《宝探しビーチクリーンに参加した小学1年生》
学校の先生に渡されたチラシを見て参加しました。お父さんとお母さんと一緒にいっぱいごみを拾えました。お宝ともいっぱい交換できたので楽しかったです。またみんなで参加したいです。

《探鳥会に参加した小学4年生の保護者》
子どもが前から行きたいと言っていてやっと参加できました。いつも家で動画ばかり見ている姿をここ数年は見慣れていたで、図鑑を見て野鳥観察に夢中になる娘を見てビックリしました。次回も一緒に参加したいと思いました。

《津谷川リバーパークへの参加者(60代)》
私は今まで行政の立場にいて、皆さんが様々なエリアを清掃しているのは知っていました。今回初めて参加して感じたのは、防潮堤の上からだごみがなく綺麗だと思っていましたが、降りてみると沢山のごみがあったこと。今までの皆さんの活動に感謝です。



宝探しビーチクリーン



外尾川リバーパーク

当団体は、地域の熟練漁業者と若手エンジニアが協力し、人と自然が調和する豊かな海の環境づくりを目指して2023年に設立しました。

私たちが行っている「磯焼けウニの自動検知」・「ブルーカーボン量計測用AIモデル」・「水中ロボット」などの研究開発の成果を、子どもたちでも容易に扱える形で提供し、海の変化や恵みを体感できる体験型環境学習イベントを開催しています。



AI学習に取り組む子どもたち

テクノロジーを用いて海の変化を深く理解し、海の恵を味わうことができる、次世代の環境学習イベント開催

◎活動地域 | 神奈川県逗子市

◎助成期間 | 1年間



プロジェクト内容

次世代を担う小学生を対象とした体験型の環境学習イベントを、地域の熟練漁業者と若手エンジニアが共同で開催します。参加者は、身近な海の詳細な変化を目の当たりにし、海中ロボットやAI技術を活用して環境問題にアプローチする方法を体験し、学ぶことができます。さらに、養殖現場の見学や地域の海の恵を味わうことで、豊かな海を守っていききたいという想いが育まれる機会をつくります。

実施結果

2023年度から開催した環境教育イベントは、当年度も2回のイベントを実施し、ともに参加者および保護者様から大変高評価をいただきました。今年度はイベント内容を大きく拡充し、参加者の体験価値向上に注力した結果、アンケートではAIへの興味が湧いたことや、ワカメの種付け体験が楽しかったなど、拡充した内容に対する評価をいただけたことを嬉しく思っています。

一方で、参加者一人一人が海中ロボットを楽しむ時間が少なかった点や、AI学習の内容が高度になると子どもたちの理解が難しくなる部分があることなどが改善点として挙げられます。今後はこれらの点を改善し、さらに充実した内容を提供していきます。

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	2回	2回
環境教育参加人数(のべ人数)	36人	小学生参加者30人(保護者約30人)



ワカメの種付け体験



乗船して水中ドローンで海の中を観察

活動に関わった方の声

《環境学習に参加した小学生》
・とにかくAIをもっと知りたいと思った。
・AIでつくっていくのが一番すごかった。
・AIが好きになった。帰ったらAIをつくる。

《環境学習に参加した保護者》
・実際のモデルを使ってAIの仕組みを体験できて、自分で飼育するほどはまっているカニ×AIをつくりたいから勉強する!と意欲を出していました。前回に引き続き、ワカメがとれなくなっている状況が思っていた以上に深刻だとわかったことも印象深かったです。
・普段ワカメを食べない娘でも食べる事が出来ました。小さかった種が僅か2ヶ月で大きくなったことに驚いていた様です。プログラミングも今回はコードを使ったものになっており、開催者の皆様の工夫を感じました。とても勉強になる内容でした。ありがとうございました。

倉敷市水島地域は、戦後、我が国を代表するコンビナートが建設され、高度経済成長を支えましたが、同時に大気汚染公害も発生しました。公害訴訟の和解を受け、市民・企業・行政および専門家などが協働して、地域の環境再生・まちづくりに取り組むための拠点となるべく当財団が設立されました。

公害の教訓を未来に活かし、持続可能な地域づくりを目指して、若者の学びの場づくり・支援、海ごみ問題などに取り組んでいます。



啓発展示

©水島地域環境再生財団

瀬戸内海の守り人 “海ボウズ”育成プロジェクト

◎活動地域 | 岡山県倉敷市

◎助成期間 | 2年間



プロジェクト内容

海ごみの約8割は陸域由来と言われており、全国でも有数の用水路王国である倉敷市で、用水路およびその周辺でのごみ拾い活動「海ボウズプロジェクト」を市民に呼びかけ、定期的に実施します。その取り組みを見える化して社会に成果を発信するとともに、日常的にごみ回収や発生抑制に取り組む人材を育成することで、瀬戸内海に流入するごみの減量化を目指します。

実施結果

昨年度より始めた、月1回の「海ボウズプロジェクト」に加えて、「陸ごみ回収ボックス」の設置・呼びかけや、「海ごみ推理ワークショップ」の実施など、新たな展開を加えることで、活動の幅を広げることのできた1年となりました。特に、中学生や高校生、大学生向けの取り組みでは、清掃に加えて学びの要素も取り入れたことで、若い人たちにとって有意義な活動となり、今後に期待できると考えています。他団体の清掃活動と連携したこともあり、ごみ回収量は目標を大きく上回ることであります。活動場所が固定化してきているところもあり、今後は新たな場所を開拓するとともに、そこでの活動をきっかけに、自主的・継続的な取り組みを呼び掛け、活動の環をさらに広げていきたいと考えています。

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	16回	16回
活動参加人数	563人	412人(うちTOTOグループ社員 25人)
ごみ回収量	270kg	718.59kg



©水島地域環境再生財団



©水島地域環境再生財団

中学生による河川清掃と環境教育

活動に関わった方の声

《倉敷市立南中学校2年生》
・川を1時間くらいそうじただけで、こんなにも多くのごみがとれてびっくりしました。
・ごみ拾いをして分かったことは、ごみにもいろいろ種類があることです。掃除をする人がいても、汚す人がいるといつまでも川はきれいになりません。なので、川へのポイ捨てはやめましょう。

《倉敷医療生協職員(女性)》
「陸ごみ回収ボックス」に取り組むことで、意識が変わり、通勤コースでごみが溜まっているところを選ぶようになりました。通りすがりの人にお礼を言われてとても嬉しかったので、今後も頑張りたいと思います。



陸ごみ回収ボックス

©水島地域環境再生財団

当団体は、日本の逆境にいる子どもたちや、世界中の難民キャンプ・貧困地域などで暮らす子どもたちに教育提供・職業支援などを行うことを目指して2008年に設立。これらのサポートを通して自身の夢を叶え、カーストや貧困に縛られずに生きていけるよう支援しています。

2022年からは、日本国内においてビーチクリーン活動で海洋ごみを回収し、アップサイクルするプロジェクト「TRUE BLUE」を開始しました。



海洋ごみを使ったワークショップ

沖縄でのビーチクリーンとアップサイクル体験による5R普及活動

◎活動地域 | 沖縄県国頭郡今帰仁村古宇利

◎助成期間 | 3年間



プロジェクト内容

沖縄における「TRUE BLUE」活動プロジェクトを発足します。体験型観光スポットの施設を開設し、観光客をはじめ沖縄に住む住民が参加できる「ごみを唯一無二の作品に昇華させる」場としての定着を目指します。また沖縄や世界の海洋保全の大切さを伝えるワークショップを開催し、製作した作品はブランド化して販売することで、海洋問題を知らなかった人々にも海洋問題を知り考えるきっかけを作ります。

実施結果

2023年にアップサイクルの工房が完成してから、地域住民や観光客へのアプローチを行い、ビーチクリーンや環境保全のワークショップを実施してきました。また、広報活動として、他団体との協働のイベントや自主開催ツアー、海外店舗の立ち上げ、全国行脚啓蒙トークツアーなどを行い、海洋問題への関心を幅広い層へ普及させる活動をしています。このように、国内外の人々が共通の関心に目を向け環境問題を知り、学び、実践に移し、各国の海洋問題を自分事として共に考え、国を越えて課題解決に向かう事業を展開する中で、スタートアップの大事な時期に多方面からの活動を行うことができました。

《定量成果》

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	50回	950回
活動参加人数	2,200人	1,736人(うちTOTOGグループ社員 13人)
ごみ回収量	3,500kg	1,000kg



ビーチクリーン



アップサイクル アクセサリーづくり

活動に関わった方の声

《活動に参加した男性(10代)》
夏休みの思い出になりました。夏休みに行った海はとても綺麗だったけど、その海にもこうやってごみが落ちてて、生き物が死んでいるのは悲しい。

《活動に参加した女性(20代)》
ビーチクリーンの参加から始まり、海洋プラスチックから世界に一つだけの作品を作る体験。とても貴重な経験でした。ごみだと思っていたものが自分の手によって素敵なプロダクトに変わっていく様に、ワクワクを感じました。

《活動に参加した女性(30代)》
海洋プラスチックがこんなに素敵なアクセサリーに生まれ変わること感動しました。これをきっかけに、子どももアップサイクルに興味を持ちました。そんな人が1人でも増えて、大好きな海や地球のために自分たちができることを少しでもやっていけたらいいなと感じました。

ウォーターエイドは、世界の最も貧困なコミュニティに清潔な水と衛生を届けることを目的に1981年に設立された水・衛生専門の国際NGOです。

「すべての人がすべての場所で、清潔な水と衛生設備(トイレ)を利用し、衛生習慣を実践できる世界」をビジョンとし、この実現のために、アジア、アフリカなど25か国において、水・衛生プロジェクトの実施、政策提言および関心喚起に取り組んでいます。

日本法人であるNPO法人ウォーターエイドジャパンは、2013年に設立されました。



完成した給水設備からの水汲み

©WaterAid India

インド ビハール州 保健センターの水・衛生改善プロジェクト

◎活動地域 | インド ビハール州マドゥバニ県

◎助成期間 | 1年間



プロジェクト内容

インドの農村部では、家庭内だけではなく、保健医療施設や母子保健センターなどの「公共の施設」でも給水設備・トイレが使えず、手洗いができないことが課題となっています。ビハール州マドゥバニ県の4村にある母子保健センター20か所、保健医療施設1か所、安全な飲料水と衛生設備(トイレ)を利用できるように、手洗いなどの衛生習慣を普及するほか、4村に1基ずつ排水管理システムを設置して地域の衛生環境を改善します。

実施結果

この1年間で県内の母子保健センターと保健医療施設における水・衛生設備の改善は大きく前進しました。また、村々にシンブルかつ効果的な排水管理システムを導入し、より清潔で健康的な環境づくりに貢献しました。こうした総合的な取り組みにより、人々は安全な水を利用し、正しい衛生習慣を実践することが可能になりました。住民、特に女性や社会から疎外されがちな人々が自信を持って、水・衛生改善の取り組みに参加するようになっていきます。今後、当団体では本プロジェクトの成果を「モデル」として示しながら、住民、現地政府などと連携して、費用対効果の高い持続可能な方法で地域の水・衛生改善に取り組んでいきます。

《定量成果》

	計画値	結果
保健医療施設、女性自助グループ、学校運営委員会対象の水・衛生維持管理セッション参加者数(のべ人数)	200人	602人
母子保健センター20カ所の給水設備	20基	20基
保健医療施設1カ所のトイレ・手洗い設備・給水設備	1基	1基
排水管理システム	4箇所(1村1箇所)	4箇所(1村1箇所)
受益者数(実人数)	7,280人	5,226人(設備設置1270人+3956人)
衛生教育参加人数(のべ人数)	500人	3,956人



母親グループ会議



排水管理システム

活動に関わった方の声

《排水管理システムの利用者グループ代表:ギータ・デヴィさん》
以前この地域には、排水を処理する術がなく、道路や共有地に排水が溜まって問題を引き起こしていました。今回の支援によって、私たちはマジックピットという優れた排水施設を手に入れることができました。衛生を促進できるようになり、とても感謝しています。

《学校運営委員会メンバー:ユゲシュ・クマルさん》
私たちは、ウォーターエイドが私たちの村の母子保健センターの給水設備を改修し、手洗い場を備えた新しいトイレ棟を建設したことによる大きな改善を目の当たりにしました。今では学校と母子保健センターに整備された水・衛生施設があり、子どもたちは自分たちの権利、特に水・衛生に関する権利を積極的に主張しています。水・衛生施設が建設されて以来、全ての施設が清潔に保たれ、よく整備されています。

当会は、安全な飲料水の供給から始まり、現地からの要請を受ける形で、「環境保全」「教育支援」「生活自立支援」に関する活動を行ってきました。地域の課題解決のために、4分野の事業を中心に必要な事業を組み合わせ、地域の自立を目指しています。また、日本国内においても、アジアやその支援活動に関心を持ってもらうための啓発・広報活動を実施しているほか、全国の会員がアジア支援や活動の輪をひろげるためのチャリティイベントなどを行っています。



参加者の集合写真

©アジア協会・アジア友の会

住民主体のごみ管理 ～グリーンでグリーンな地域・学校・水環境のために～

◎活動地域 | フィリピン ソルソゴン州マトノグ町、サンタ・マグダレナ町、カシグラン町 他
◎助成期間 | 1年間

プロジェクト内容

ごみ処理システムの整わないフィリピンの農村において、ごみの分別とリサイクル・堆肥化促進による「不衛生な生活環境や水環境の改善」・「子ども・親たちの環境意識向上」を実施してきました。また、有機肥料で安全な野菜を栽培し、栄養改善や低収入の家庭を支える「栄養改善・家計支援」の事業活動をさらに広範な地域へ展開し、ネットワークを構築して強固な実施体制をつくることによって定着を目指します。

実施結果

地域の水環境の悪化によっておきる環境破壊や貧困を改善するために、住民主体のごみ管理に取り組み多くの成果を上げることができました。ごみの分別や堆肥化・苗木作りセミナー開催が大きな意識改革につながっています。地域清掃は、継続することで美しく清潔な地域作りを推進。学校・幼稚園と連携した活動では新たな拠点34ヶ所で、実践と習慣化の促進、地球と地域の環境教育を行いました。各拠点で必要とされる、トイレ、水タンクや手洗い場所の設置も開始し、リサイクルできる素材のアップサイクルも継続して幼稚園の教材などに有効活用しています。ココナッツオイルの生産・販売も始め、各家庭の収入の増加、栄養改善や経済的負担を軽減し住民の安心感にもつながっています。



ビーチクリーン光景

©アジア協会・アジア友の会

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	120回	161回
活動参加人数	2,300人	4,620人
ごみ回収量	15,000kg	20,000kg
植樹本数	600本	950本(ジャックフルーツ、マンゴローブ、サトウ、柑橘類など)
「水タンク手洗い場所・トイレ・キッチン・屋根など」設置	—	18基・13箇所(13ヶ村の幼稚園)
受益者数(実人数)	2,000人	2,500人
衛生教育参加人数(のべ人数)	1,960人	4,620人

活動に関わった方の声

《パンダンのクリーンアップに参加した高校生》
今年は大きな台風が連続してパンダンを襲い、町のあちこちで大きな被害が出ています。浜辺もごみでいっぱいでも大変でしたが、みんなで力を合わせてきれいにすることができました。私たちの故郷の自慢のビーチに戻すことができ、とても嬉しいです。

《サンタ・マグダレナ児童開発センター スタッフ(20代)》
オリエンテーションはとても分かりやすく、私たちが新たに取り組むために必要な情報や具体的な行動について詳しく学ぶことができました。この知識は、私たちの子どもや保護者、そして地域社会にも大いに役立つと確信しています。今から実践することが楽しみです。

《サンタ・マグダレナ住民 保護者(40代)》
このプログラムに参加できたおかげで、私たちの環境で何が起きているのか、私たちの行動が環境と子どもたちにどんな影響を与えているのかを実感しました。



環境オリエンテーションの様子

©アジア協会・アジア友の会

当団体は、「すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界」を目指して、主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開しています。特に人材育成に力を入れており、各国の青年が地域のリーダーとなれるよう研修を行い、修了後は各国に戻ってそれぞれの国で農村開発に取り組んでいます。日本では、農林業体験やセミナー開催などを通しての啓発活動や環境保全活動を展開しています。



みんなで植樹

©オイスカ

ミャンマー中央乾燥地域における水環境の改善と環境教育

◎活動地域 | ミャンマー マンダレー地域ヤメーティン県ピョーボ工部
◎助成期間 | 1年間

プロジェクト内容

厳しい気候条件の中、慢性的な水不足となっているミャンマー中央乾燥地域にある事業地において、雨水貯蔵システムを設置すると共に、不足しているトイレの建設および栄養源となる樹種の植林活動を行うことで生活環境の改善を図ります。さらに、児童や教員を対象とした水環境保全に向けたセミナーやごみの清掃、農業や化学肥料を使わない野菜づくりなどの環境教育を行うことで、学校における環境保全活動が主体的に継続されることを目指します。

実施結果

厳しい気候や予期せぬ災害、社会不安が続く中でも、現地スタッフの献身的な努力と学校の協力により、概ね予定通り活動を実施することができました。雨水貯蔵設備やトイレ、焼却炉の設置により、衛生環境や子どもたちの学習環境の改善にも貢献できたほか、緑化や学校菜園に雨水を活用するなど、乾燥地ならではの課題に対応しながら環境保全活動を促進することができました。また植林活動や有機農業の実践指導のほか、教員向けセミナーやエコキャンプなどの開催を通じて、子どもたちだけでなく教員や住民にとっても、環境に対する意識を高め、実践力を強化する機会になりました。地震による影響も一部見られるため、調査とフォローアップを継続して行っています。

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	28回	45回
活動参加人数	3,550人	2,772人
ごみ回収量	50kg	45kg
植樹本数	1,000本	600本(ニーム、レインツリー、ハウオウボク、セミアニアなど)
環境教育参加人数(のべ人数)	2,700人	2,510人
「雨水貯蔵システム・トイレ・ごみ焼却炉」設置	7基・4箇所	7基・4箇所
受益者数(実人数)	1,795人	1,972人

活動に関わった方の声

《雨水貯蔵設備を設置した学校の校長先生》
井戸を掘っても、飲み水にも植物の水やりにも使えない水しか出なかった学校に雨水タンクができて、本当にありがたいです。水がたくさん貯まったので、飲み水や野菜づくりに活用できます。苗木にもしっかりと水やりをして、枯れないように管理を続けます。

《植林活動に参加した生徒》
植えた木が早く大きくなって、日陰になってくれるといいなあと思います。村の人たち全員に木を植える活動に参加してほしいし、木を植えることの大切さをみんなにわかってほしいです。村の中や家の近くにも木や花を植えて、きれいな村にしていきたいです。

《エコキャンプに参加した教員》
複数の学校から子どもたちが集い、環境をテーマに学びあうことができるこの機会は本当に貴重でありたいです。ぜひ今後も継続していただきたいです。



完成した雨水タンクからの水汲み

©オイスカ



新設トイレの清掃活動

©オイスカ

当団体は、インドシナ難民を支援するために発足した「日本生まれ」の国際NGOです。「一人ひとり多様な人間が、各々の個性と人間としての尊厳を保ちつつ共生できる、持続可能な社会」を目指し、政治・思想・宗教に偏らないことを基本に、難民など人道的危機にさらされた人々に必要なものを迅速に届け命をつなぐ緊急支援と未来を切り拓くための長期的な支援を展開しています。現在は国内外18の国と地域で活動しています。



完成した女子トイレ

©AAR Japan

ウガンダにおける学校の衛生環境整備支援

◎活動地域 | ウガンダ チクベ県チャングリ難民居住地
◎助成期間 | 1年間

プロジェクト内容

ウガンダ共和国の西側国境近くのチャングリ難民居住地は、首都から離れた地方に位置していることからインフラ整備などの開発が遅れており、増加する難民数に対して学校施設の整備も追いついていません。当居住地唯一の中等教育校にある女子寮にトイレ・生理用品焼却炉・水浴び場・井戸・水供給システムを整備するとともに、学校関係者や女子寮利用生徒への衛生啓発研修を通じて、自身の体やトイレの衛生管理ができるようになることを目指します。

〈定量成果〉

	計画値	結 果
助成対象事業の活動回数	4回	7回
活動参加人数	201人	409人
「トイレ」設置	4基(内1基はバリアフリー設備)	4基(内1基はバリアフリー設備)
「水浴び場」設置	3基	3基
「生理用品焼却炉」設置	1基	1基
「井戸」設置	1基	1基
受益者数(実人数)	272人	409人
衛生教育参加人数(のべ人数)	193人	611人

実施結果

ウガンダ・チャングリ難民居住地で唯一の公立中等教育校の女子寮にトイレ・水浴び場・生理用品焼却炉・井戸および水供給システムを整備したことで、女子寮の衛生環境を整え、寮生が安心して学習できる環境を整備することができました。寮生からは井戸を設置したことで、水汲みの時間が短縮され、授業に遅刻することがなくなった、勉強に集中できるようになったという声が聞かれました。そのほか、寮母、寮担当教職員、代表生徒、寮生に対して施設の維持管理研修や衛生啓発活動を行ったことで、寮生がトイレ使用後の手洗いの習慣や、使用した生理用品を焼却炉で正しく処分する方法、建設したトイレや水浴び場を清掃し、清潔に保つ方法を身につけることができました。



布ナプキン作りの指導をする女子生徒代表



完成した井戸を利用する生徒たち

©AAR Japan

当団体は、カナダのバンクーバーに本部を置くホープ・ネットワークの日本拠点として、2001年に名古屋で設立されました。ホープ・ネットワークは世界9カ国に拠点をもち、極貧層への支援を続けています。「支援の届いていない人々の自立への道筋を支援すること」を理念とし、住民自らが問題を解決し貧困から抜け出すための自立支援事業を行っています。「水からはじまる自立支援」をキャッチフレーズに水供給・保健衛生・教育事業を展開し、これまでに5万人以上に安全な水を供給しました。



布ナプキンの寄贈

©HOPE Japan

私たちが広める! 「トイレの利用と手洗い」

◎活動地域 | エチオピア 南エチオピア州ゴファ地方オイダ地区
◎助成期間 | 1年間

プロジェクト内容

南エチオピア州ゴファ地方オイダ地区の4つの小学校のうち、3校で水環境基金の助成を受けてトイレを建設し、児童にトイレ利用と手洗いの衛生啓発を行いました。これにより、児童たちは新しいトイレを利用し始め、手洗いの習慣も定着しました。残り1校のトイレ建設は長雨による道路崩落で断念し、代わりに月経教育を実施予定です。また、ザバ郡の小学校でもプライバシーを確保したトイレ建設と衛生教育を行う予定です。

実施結果

今年度も、気候変動による長雨や森林伐採による土砂崩れ、通貨ブルの下落など外的要因の影響を強く受けました。ドゥバゴ小学校では4度壊れた土製トイレの代わりに新たなコンクリートのトイレを完成させ、月経衛生教育も実施。子どもたちの尊厳を守られる環境が整いました。道路崩壊で建設を断念したペレタ小学校には、近隣校で授業を行って支援を届け、最後まで諦めず誰一人取り残されないようできる限り支援を行いました。子どもたちが得た月経や公衆衛生に関する確かな知識は、支援終了後も生きていく上でずっと役立っていくものとなります。

〈定量成果〉

	計画値	結 果
助成対象事業の活動回数	10回	10回
活動参加人数	1,375人	1,375人
「女子児童学校トイレ」設置	4基・1箇所	4基・1箇所
受益者数(実人数)	1,370人	1,370人
衛生教育参加人数(のべ人数)	1,370人	1,370人

活動に関わった方の声

《ドゥバゴ小学校:児童(15歳)》
生理があるときは、女の子用のトイレもなく学校を休んでいたの。でも、新しいトイレができると聞いて、これからは安全にトイレが利用ができると思うととても楽しみです。

《ドゥバゴ小学校:校長先生》
念願のトイレが完成し大変感謝しております。ようやくプライバシーが守られたきれいなトイレを児童たちが利用できるようになります。WaSHクラブを中心に維持管理していきたいと思っています。

《ペレタ小学校:女性教師》
生理が原因で女子児童が男子児童と同等に教育を受けることができない現状でした。この授業を通じて適切な知識を身につけた女子児童たちは学ぶことにもっと意欲的になると思います。



小学校に完成したトイレ

©HOPE Japan



布ナプキンを受け取った女子児童たち

©HOPE Japan

当団体は、女性や子どもが生まれた国や地域に関係なく、平等に生き、公平に社会のスタートラインに立てるような社会の実現を目標に2022年3月に設立しました。設立以降、ケニア西部キスム郡地域において高い母子死亡率の改善を目標に、女性たちが母子保健知識を学ぶための仕組みづくりを実施してきました。また、地域ボランティアと協力して、女性たちが自身と子どもたちの健康を守るように母子保健に関する知識の講習会を定期的を実施するなど様々な取り組みを行っています。



完成したエコサントイレとその仕組み

©STAND ALIVE

水と衛生環境の保全のための環境衛生式トイレ普及事業

◎活動地域 | ケニア キスム郡キスム西隣郡東キスム区コゴニ準区
◎助成期間 | 1年間



プロジェクト内容

野外排泄やビットラトリンの使用によって土壌・水質汚染や感染症の蔓延が深刻な問題となっているケニア西部キスム郡において、高床式・し尿を無害化するトイレ「エコサントイレ」の普及および使用・管理方法の啓発を行います。事業開始時には地域保健ボランティアへの研修を行うとともに、地域住民に向けた水衛生知識の啓発活動を事業期間を通して定期的に行い、地域全体の衛生に対する意識を高め、環境改善の維持を目指します。

実施結果

途上国においては、トイレの建設そのものよりも、その後の適切な使用の方が重要だと考えています。まずは建設されたトイレが正しく使用されていくことに重点を置き、その中で普及のための方策を模索していきます。住民の費用負担は、地域におけるエコサントイレの必要性を再確認する機会ともなっており、将来的には、当該トイレの建設が住民による半ビジネス的な活動へと発展し、この地域がエコサントイレ建設の盛んな地域となるとともに、周辺地域への発信拠点となることを目指していきます。

水およびトイレに関する住民向け講習会については、母子保健とも関連する要素があることから、今後も継続的に実施し、母子保健と水衛生の両面から、事業地の住民の理解を深め、周辺地域に良い影響を波及させることができるレベルにまで事業を引き上げていきたいと思っています。

〈定量成果〉

	計画値	結果
「エコサントイレ」設置	30基	30基
衛生教育参加人数(のべ人数)	550人	855人

活動に関わった方の声

《エコサントイレを自宅に建設したOさん》
エコサントイレの仕組みや利点を知り合いや地域保健ボランティアから聞き、ぜひ建てたいと思いました。し尿を肥料として使えるのが私にとっての利点です。実際に使うのはこれからですが、一番いいトイレだと思っています。これから使うのが楽しみです。

《地域保健ボランティアのYさん》
エコサントイレの仕組みや利点を学ぶことが出来ました。村の住民たちが自身の健康や環境を自らの手で改善するために、このトイレを自分の担当地域に広める役割を担えることにとても充実感を感じています。

《地域保健ボランティアのGさん》
エコサントイレの利点を地域の人々が理解すれば、それを広めたり人々に建てるように説得するのは難しいことではありません。実際に建設した人々がその利点を最大限生かせるように、これからも地域の人とコミュニケーションを取っていきます。



エコサントイレの実践研修

©STAND ALIVE



地域住民を対象とした啓発活動

©STAND ALIVE

Team NAKUSCOは、日本で住血吸虫症の研究をしている研究者有志の集まりです。研究者として、日夜、新しい治療薬の開発やより正確な診断方法の開発に取り組んでいますが、研究室を飛び出して感染に苦しむ地域とともに行動し、流行地の感染症制圧を目指すために当団体を設立しました。

寄生虫に汚染された水に接触することで感染する住血吸虫症を防ぐには、安全な水と衛生的なトイレが必要です。ケニア共和国において、安全な水と衛生的なトイレにアクセスできるようにするためのインフラ整備と、感染症にからないための行動を実践する衛生教育に地域の人とともに取り組みます。



子どもたちの手洗い教室光景

©長崎大学

NAKUSCO Kichocho Project ~みんなでつくる、水とトイレと村の未来~

◎活動地域 | ケニア クワレカウンティ地域
◎助成期間 | 1年間



プロジェクト内容

ケニア共和国クワレカウンティ地域において、衛生的なトイレや安全な水へのアクセスが困難なために住血吸虫症や下痢症に苦しむ村で、住民自らが主体的に環境改善に取り組むCommunity-Led Total Sanitation (CLTS) プログラムを支援し、地域政府や住民と協力してトイレと井戸の設置、水場の改良整備とその利用に関わる社会行動変容に取り組みます。

実施結果

事業はおおむね計画通りに遂行され、トイレ2基の設置、ウォータータンク1基の設置、全校生徒を対象とした衛生教育、環境教育と植樹を実施しました。ただ、トイレ建設が予定より遅れ、最終報告で利用状況や子どもたちの感想をお伝えできないことが残念です。

3月末にトイレとウォータータンクを現地の管理委員会に引き渡す予定となっています。プロジェクト終了後にはなりますが、4月に管理委員会と小学校の先生、保護者による活動の振り返りを実施し、また子どもたちからもトイレの利用の感想を送ってもらう予定です。

また、本事業により、長崎大学の学生も現地を訪問し、ボランティアとして衛生教育に関わることができました。

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	54回	55回
植樹本数	0本	100本(メリア、アカシア、マンゴー)
環境教育参加人数(のべ人数)	0人	100人
「共同トイレ(男子用2個+女子用2個)」設置	9基・2箇所	9基・2箇所
「雨水をためるウォータータンク」設置	2基・1箇所	2基・1箇所
受益者数(実人数)	650人	890人
衛生教育参加人数(のべ人数)	600人	730人

活動に関わった方の声

《ムワジャンガ小学校・児童》
学校に綺麗なトイレができて嬉しい。これからはちゃんとトイレを使います。でも家にはトイレがないんだよね。

《ムワジャンガ小学校に3人の子どもの母さん》
子どもたちが下痢やキチョチョ(住血吸虫症)に罹ったことがある。トイレで排泄することが大切なのは知っているが、うちにはトイレがない。地域全体で子どもたちの衛生環境を整えることはとてもいいことだと思う。保護者としてできるだけ協力したい。

《クワレ保健大臣》
トイレを使うこと、衛生教育を推進することは、感染症予防の観点からも極めて重要です。活動が地域全体にポジティブな変化をもたらす最初の一步となることを願っています。



完成したトイレ

©長崎大学



子どもたちへの衛生教育の重要性をレクチャー

©長崎大学

当団体は、地域在住の一般市民が地元を愛し、大切に続けられる環境づくりを主たる目的として設立しました。

習志野の海辺を「生活に密着し、触れ合うことのできる海辺」へと再生することを目指す環境整備を基軸として、里山の生物多様性保全、地域の方や学生・子どもたちを対象とした環境教育、他のNPOや教育機関と連携した環境フォーラムの開催など幅広い活動を行っています。



環境フォーラム参加者

習志野の海を守る会「とりもどせ! ぼくたちの海」

◎活動地域 | 千葉県習志野市 東京湾岸エリア

◎助成期間 | 3年間



プロジェクト内容

習志野市の東京湾岸エリアで実施しているプラスチックごみなどの海洋ごみの回収・清掃活動などを基盤として、近隣のNPOや大学などと協力のもと、「環境フォーラム」を開催して広く市民や市政に向けて環境保全に関する提言を発していくなど、一人でも多くの方に、自然保護や生物が生き続けることのできる環境づくりに関心を持ち、行動していただけるように実践、啓発を行っています。

実施結果

本プロジェクトも2年目を迎え、ようやく安定した運営となった感があります。本年度は毎月の定例清掃以外に秋の海辺の写真展、春の環境フォーラムを開催、ともに成功させることができました。参加人数や開催の規模にこだわらず、持続可能な社会の実現に向け、身近な環境を守る大切さを伝えることを目的とする我々の活動も、少しずつ地域や関連団体の皆様に理解されてきたのだと感じています。1年間を通して、それぞれ普段は別の仕事につくスタッフ達が一生懸命準備して各活動、各イベントを指導してきました。メンバーの結束の深さがより一層深まった1年であったと感じており、来年以降のさらなる発展を予感させる成果が得られたと感じています。

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	16回	16回
活動参加人数	400人	400人(うちTOTOグループ社員 4人)
ごみ回収量	4,000kg	4,000kg
保全整備した面積	10,000㎡	10,000㎡
有害生物の除去(植物)	100kg	100kg(アレチノギク)
環境教育参加人数(のべ人数)	100人	100人



海岸ごみ回収光景

活動に関わった方の声

《清掃活動参加者》

西浜のすぐ近く、秋津地区で町内会活動に関わっています。習志野の海を守る会は若者が中心のNPO活動ですが、起源は80年代の習志野の埋め立て最終期に幼少期を過ごした子どもたちが中心の活動であり、安定した地域の取り組みです。今後も協力したいです。

《環境フォーラム参加者》

単に海辺の保全だけでなく、そこから気候変動や薬物汚染など広く世界の環境保全に目を向ける姿勢は他団体には見られない特徴であると感じた。今後も継続して欲しいと思っています。



環境フォーラム展示

当団体は、海洋生物の調査研究・保全に関する事業を行い、国際協力を基に研究者や関係機関との相互連絡を図りながら、海洋環境の保全に寄与することを目的とする団体です。

当初はインドネシアウミガメ研究センターの日本窓口としての活動から始まり、現在はインドネシア、小笠原、関東でウミガメ類の調査・保全活動の他、小笠原でザトウクジラの調査も行っています。



スタッフによるレクチャー光景

©ELNA

絶滅危惧種であるウミガメ類の海洋ゴミ誤食調査と普及啓発

◎活動地域 | 小笠原諸島、関東地区

◎助成期間 | 3年間



プロジェクト内容

絶滅危惧種であるウミガメ類の誤食状況と海洋ごみの影響を調査します。現地での実態調査とともに、収集した海洋ごみを用いた体験型イベントを開催し、一般市民の方々に海洋汚染の現状を実感してもらうことで、環境保全への認識を高めることを目指します。生物多様性の保全と海洋汚染問題の普及啓発を融合させた定期的なプログラムとして確立し、参加者の拡大を図っていきます。

実施結果

小笠原諸島父島におけるアオウミガメ捕殺個体の調査に関しては計画以上の参加率となりました。調査時に説明をしながら作業をすることで、島内の関係者にごみ誤食率の高さを知っていただく機会となりました。また、前年度は達成できなかった海岸におけるごみ清掃も計画通り実施することができましたが、普及啓発イベントに関しては、リピーターの参加が少なく、集客に苦戦した印象があります。しかしながら、イベントスペースのあるカフェとのコラボ実施やSNS掲載広告、オンラインツールの活用などによってリーチ人数を増やすことはできたので、2025年度はより魅力的なイベントの計画・実施により海洋ごみ問題の普及啓発に尽力していきたいと思っています。

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	30回	40回
活動参加人数	70人	100人(うちTOTOグループ社員 1人)
ごみ回収量	10kg	15kg
環境教育参加人数(のべ人数)	130人	95人
小笠原捕殺個体調査の参加割合	90%	100%



小笠原諸島海岸の現状説明

©ELNA

活動に関わった方の声

《夏の自由研究イベント参加者》

・実際にごみを見て、エサだと思って食べたという事実を目の当たりにして、ごみの分別やごみ清掃をより一層気にかけるようになりました。
・今後はごみを捨てないことはもちろん、海の生き物への影響が少ない(自然に戻るような)包装材や網、紐の開発なども進んでいくと良いと思います。

《小笠原諸島父島「製氷海岸」清掃参加者(教師)》

・遊び盛りの中学生たちが真剣に取り組んでいて、それだけ子どもたちが海が身近で守るべき存在と理解しているんだと驚いた。今後も継続してこういった活動を行ってきたい。



ウミガメ1頭分の誤食ごみ観察

©ELNA

14 NPO法人 エー・ビー・シー野外教育センター

【代表者】 藤谷 将彦

大分県内で「青少年への自然体験活動」などを行っている民間団体・大学教授・教職員・社会教育主事などを中心にメンバーを募り、ボランティアや単発での活動に終わらない団体設立を目指してNPO法人化を実現しました。行政や学校法人などからの業務委託や助成金などを活用した事業展開を行い、青少年の健全育成に寄与することを目的としています。



小学校での授業風景

子どもたちのウエス作りが別府市の水環境を変えていく！

◎活動地域 | 大分県
◎助成期間 | 3年間



プロジェクト内容

日常生活において生活排水に思いを巡らす機会は少ないので、小学校など子どもたちが集まる場所へ環境教育の出張授業を行っています。
授業内容は「生活排水クイズ」・「ウエス作り」・「環境保全パネル学習」で構成します。自分たちで作成したウエスは自宅に持ち帰り、家でも食器などの汚れ・油汚れをふき取る活動をしてもらうことで、「水環境」をより良いものにしていくことへの啓発を図っていきます。

実施結果

昨年度の事業スタートの遅さを反省し、4月始まってすぐに参加校の募集を実施したり、実施先をフリースクール・児童館・放課後児童クラブなどへ拡大したことにより、471名の参加者へウエス作りのワークショップを行うことができました。全体として、広く大分県内各地・各施設で事業を実施したことにより、様々なステークホルダーの皆さんとの関係性を構築することができて、次年度以降の活動につながる1年となりました。来年度は、当初予定していた「ビーチ清掃イベント」も視野に入れて計画し、地域の小学生やその家族も水環境について考え、行動できるイベントを開催していきたいと思っています。

《定量成果》

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	34回	24回
活動参加人数	680人	471人

活動に関わった方の声

《ウエス作りワークショップに参加した小学生》
・たった小さじ一杯の醤油でもたくさんの水がないと魚が住めないということを知りました。私は家でもウエスを使っていましたが詳しい事は知らなかったので、知ることができて良かったです。未来を守るために自分にできることを一つでも多くやっていきたいです。
・私はウエスが環境保全に大切なんだと分かりました。その理由はそのままの汚れたお皿を洗ったら(余分な)せっけんや(たくさんの)水が必要だからです。これからはウエスを使って汚れを拭いて水を少なくできるように頑張ります。



みんなでウエスづくり



つくったウエスで食器拭き

15 NPO法人 おおいた環境保全フォーラム

【代表者】 内田 桂

近年、高齢化・過疎化により、農村・漁村地域においては自然環境の荒廃が進行しています。そこで大分県の豊かな生態系および生物多様性を保全し、健全な自然環境に修復、再生し、次世代に継承する責務を担うためにNPOを設立しました。
自然と共生した持続可能な住みよい郷土を伝承するために、環境保全に関する様々な活動を行い、広く公益に寄与することを主たる目的としています。



参加者の集合写真

豊かな水環境を目指す 別府湾エココストプロジェクト

◎活動地域 | 大分県大分市、別府市、日出町、杵築市、臼杵市、津久見市
◎助成期間 | 3年間



プロジェクト内容

大分県の豊かな自然環境を次世代に継承するための持続可能な地域社会の仕組みづくりを目標として、SDGs啓発・周知推進のための海洋環境教育を学ぶ拠点を創出します。そこでSDGs目標14の達成に向けた啓発、教育活動を推進するとともに、別府湾沿岸の海岸住民とネットワークを構築し、海岸清掃や海岸植生の保全を地域協働で実施することにより、健全な海岸生態系の保全を図っていきます。

実施結果

春季から夏季にかけてコロナなどの感染症が断続的に拡大し、大幅な活動計画の見直しを余儀なくされましたが、参加者数、プラスチックごみ回収量などの目標を達成することができました。
助成プロジェクトを通じ、別府湾沿岸の海岸において活動する中で、沢山の地域住民やボランティアの市民などとの新たな交流が生まれ、活動の目的を共有することができた1年でした。
助成プロジェクト2年目となった今年度は、1年目の成果と連携を基盤に、活動拠点を津久見市漁村センターおよび「つくみイルカ島」に移して活動の輪を更に広げ、長期的な目標である「別府湾の健全な海岸生態系の保全を図る」の達成に向けた活動を推進することができました。

《定量成果》

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	8回	8回
活動参加人数	250人	388人(うちTOTOグループ社員 32人)
ごみ回収量	1,500kg	2,200kg
環境教育参加人数(のべ人数)	150人	292人
保全活動をした海岸数	5箇所	5箇所

活動に関わった方の声

《小学6年生》
ウミガメが好きになった。海の生き物にとって海に捨てられたプラスチックが悪影響を及ぼすことがよくわかった。この展示を見て環境問題に興味をもつことができた。

《地域自治委員》
ウミガメが産卵できる海岸は地域の誇りです。最近は産卵はありませんが、いつウミガメが産卵に来てても良いように地域の海岸を皆さんと一緒に守って行きたいと思っています。

《日本文理大学3年生》
毎年、磯崎海岸で海岸清掃を行っているが、なかなか海岸に漂着するごみが減らない。今後も地域の人たちと一緒に辛抱強く海岸清掃を続けていきたいと考えている。



整備した展示施設



ウミガメについてのレクチャー

16 NPO法人 カラカネイトンボを守る会 あいあい自然ネットワーク

【代表者】 綿路 昌史

篠路福移湿原(しのろふくいしづげん)は札幌市に残るわずかな湿原です。この湿原にはカラカネイトンボをはじめ貴重な生き物たちが生息していますが、近隣業者による埋め立てで消えようとしています。

当団体は、地域の自然を子どもたちの故郷として残したいと強く思った地元の主婦と当時の地元高校理科研究部顧問(現理事長)により1997年に設立。札幌市北区あいの里地区を中心に、身近な自然を守る活動を行っています。



参加者の集合写真

あいの里でトンボを指標に豊かな水環境をつくろう!

◎活動地域 | 北海道札幌市北区あいの里
◎助成期間 | 3年間



プロジェクト内容

札幌市北区あいの里・篠路福移地区の水環境を継続して豊かにするため、地域住民の方と協働で地域の池沼の浚渫作業や湿原植物の植栽、ヤナギや外来性草本などの除去を行っています。

また大学生がリーダーとなり、高校生と共にトンボを指標とした環境調査を行うことで、生物や自然環境に興味を持ち、具体的な活動を実践できる人材の育成へとつなげていきます。

実施結果

今年度も昨年度と同様にすべてのイベントを実施することができました。回覧板でのご案内や当会のHP、SNSでの発信に加え口コミでの広がりも相まって、当初計画以上の方にご参加いただき、その8割以上が地元住民の参加でした。プロジェクト名でもある「トンボを指標に」の部分については、浚渫作業の効果により、高い多様性を保つことができています。

今年度は昨年度の改善点を踏まえ、イベントなどの円滑な運営を行うことができました。来年度からは、「治水」や「川」の生物以外の環境」といった別の視点も意識しながら、既存の活動に取り組みでいきたいと思っています。

〈定量成果〉

	計画値	結 果
助成対象事業の活動回数	9回	9回
活動参加人数	110人	124人(うちTOTOグループ社員 10人)
ごみ回収量	10kg	0kg
植樹本数	300本	500本(ノハナショウブ、タチギボウシ、エゾリンドウ、サウギギョウ)
保全整備した面積	300㎡	600㎡
有害生物の除去(植物)	100kg	200kg(ミクリ、ヨシ)
環境教育参加人数(のべ人数)	50人	52人



トンボ池の植栽植物整備



湿原での生物調査

活動に関わった方の声

〈活動への参加者〉
・気がつかないうちに大切な自然が壊されていることを知りました。どうしたら止めることができるのか考えたいと思います。
・7月の観察会のときに生き物採集をした池塘まで土砂が来ていたことにショックを受けました。
・周囲にすむ生物にとって大切な作業だと思い、子どもの気づきにもつながっていると思います。
・いつも鳥やトンボをみていたトンボニュース沼は、こんな努力で維持されていたのかと知ることができて良かったです。

17 認定NPO法人 改革プロジェクト

【代表者】 立花 祐平

当団体は2010年の設立以降、福岡に拠点を置き、海辺の環境保全活動と安心して暮らせるまちをつくる防犯活動の両輪で活動しています。

環境活動では、海辺の環境保全を目的にビーチクリーンや子どもたちが環境について学ぶ機会づくりなどを行っています。また、子どもや女性、お年寄りが安心して暮らせる地域社会の実現を目指して実施している防犯パトロール「パトラン」は、日本全国に広がり続けています。



冒険ごみ拾い[ADVENTURE Lite]参加者

子どもの意欲を育む環境教育プログラムの展開

◎活動地域 | 福岡県宗像市
◎助成期間 | 3年間



プロジェクト内容

未来を担う子どもたちに向けて、海との強い結びつきを感じ、心が動く体験として、環境意欲を育むことを目的とした2つのプログラム「ヤー!!(海の自由研究)」・「子どもと一緒に巡る冒険ごみ拾い(ADVENTURE Lite)」を実施します。

このプログラムの実践を通じて、子どもだけでなく、大人も環境について学び、考える機会へとつなげていきます。

実施結果

3年間にわたるプロジェクトで子どもたちを対象とした新たな取り組みを展開することができました。

活動そのものの楽しさを実感できるプログラムの特長を生かし、子どもたちに日常では体験できない貴重な機会を提供できたと自負しています。

大人たちを対象にする事業とは違い、時期や場所の選定に苦労し、思うように参加者を集められない難しさも感じました。特に今年は日程や場所の選定、広報面などうまく調整ができなかった部分があり、予定より大幅に遅れての実施となってしまったことが反省点です。しかしながら、子どもたちを対象にした企画実施の経験を積むことができたことは今後に向けて大きな糧になりました。

〈定量成果〉

	計画値	結 果
助成対象事業の活動回数	2回	1回
活動参加人数	30人	23人
ごみ回収量	300kg	200kg

活動に関わった方の声

〈ADVENTURE Liteに参加した中学1年生〉
いろいろなごみの種類があって、新しい発見がたくさんありました。漁具やプラスチック、スリッパなどのごみのほかに動物の死骸もあって驚きました。また中学が別になる友達と一緒に参加できて、思い出に残る特別な1日になりました。また参加したいです!

〈ADVENTURE Liteに参加した子どもの保護者〉
子どもも楽しんでいる様子が見られ、親としてもうれしく感じました。漂着ごみの多さや内容に触れ、多くを学ぶことができました。このような活動は日常生活の中でも継続すべきだと実感しました。今後は機会を見つけて海岸清掃に取り組んでみたいと思います。



海岸清掃



拾ったごみの種類に応じてエコ商品と交換

当団体は、「自然伝承」を理念に掲げ、ダイバーだからこそ捉えることのできる水中世界の不思議や豊かさ、素晴らしさを発信しながら、多様な主体と連携して公益性を伴った活動を行っていくことを目的として2014年12月に設立しました。

潜水スキルを活かした活動(アマモ場づくりや海底ごみの回収など)をパートナーの皆さまと共に行うことで、豊かな自然環境を次世代まで守り伝えていくことを目指しています。



アマモ種子の投入

©ふくおかFUN

「海を元気にする海草」アマモ場再生・造成プロジェクト

◎活動地域 | 福岡県 博多湾および、その近海

◎助成期間 | 3年間



プロジェクト内容

博多湾を中心とする福岡の海において、藻場の減少により失われつつある生物多様性を守るため、様々なパートナーの皆さまと連携しながらアマモ場の再生・造成活動を行います。

これにより、浅海域の磯焼けや地球温暖化など様々な海の問題解決を目指すとともに、地域社会に向けた水中世界の情報発信や保全啓発を行うことで、豊かな海づくりやネイチャーポジティブおよび脱炭素社会の実現に取り組んでいます。

実施結果

スタッフの一人ひとりが「自然と人のつなぎ役」となることを団体の存在意義として意識しながら、アマモ場の再生・造成活動を実施することができました。潜水調査の回数を増やすことで、より正確なアマモ場の現状を把握し、昨年度よりも多くの種子や苗を適地へと散布・移植することができました。また、福岡県や唐津市といった行政機関との連携が深まり、北部九州一体の環境保全を目的とした新たな協議の場が生まれたことで、ネイチャーポジティブや30by30の実現に向けた体制構築が前進する機会を得ることができたと考えています。

さらに、2024年度は17回のメディア出演があり、藻場造成の重要性を広く発信することができました。

〈定量成果〉

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	5回	14回
活動参加人数	399人	961人(うちTOTOグループ社員 のべ45人)
植樹本数	1,500本	2,113本(アマモ)
環境教育参加人数(のべ人数)	393人	899人
海へ投げ入れたアマモ種子数	5,000粒	40,000粒



アマモ花枝を探す様子



アマモ種子選別の参加者

活動に関わった方の声

《アマモ種子選別への参加者》

- ・アマモが育つサイクルを理解することができた。
- ・作業が思ったより大変だったので、短時間だったが愛着が湧いた。元気にたくさん育ってくれると嬉しい。

《アマモ種子投げ入れへの参加者》

- ・アマモ種子団子づくりと投げ入れが楽しかった。
- ・テレビでアマモについて放送されており、実際に種を見て勉強になった。
- ・海の現状を知ることができ、とても貴重な機会となった。

これまでの助成先団体一覧(国内)

	No.	活動地	団体名
北海道	1	北海道	カラカネイトンボを守る会 あいあい自然ネットワーク
	2	北海道	ぼん ぼん ぼんぶきん
	3	北海道	山のない北村の輝き
	4	北海道	森をたてようネットワーク
東北	5	青森	小川原湖自然楽校
	6	青森	白神山地を守る会
	7	岩手	紫波みらい研究所(代表団体)
	8	岩手	わが流域環境ネット
	9	宮城	梅田川せせらぎ緑道を考える会
	10	宮城	川崎町の資源をいかす会
	11	宮城	カワラバン
	12	宮城	小泉ユニバーサルピーチユニット
	13	宮城	宮城県淡水魚類研究会
	14	宮城	社の都仙台ナショナルトラスト
関東	15	宮城	リアスの森応援隊
	16	山形	鮭川村自然保護委員会
	17	山形	庄内自然博物館構想推進協議会
	18	茨城	Water Doors
	19	茨城	NPO環〜WA
	20	茨城	御前山ダム環境センター
	21	栃木	オオタカ保護基金
	22	栃木	わたらせ未来基金
	23	群馬	さなざわ里山だんだんの会
	24	群馬	緑の家学校
中部	25	埼玉	比企自然学校
	26	千葉	印旛沼広域環境研究会
	27	千葉	印旛野菜いかだの会
	28	千葉	さざなみ
	29	千葉	しろい環境塾
	30	千葉	ふるさと生きがいづくり
	31	千葉	ほたる野を守るNORAの会
	32	千葉	森のライフスタイル研究所
	33	千葉	八千代市はたるの里づくり実行委員会
	34	東京	荒川クリーンエイド・フォーラム
近畿	35	東京	おちかわの里
	36	東京	白子川源流・水辺の会
	37	東京	ぜんかんれん
	38	東京	DEXTE-K
	39	東京	森のライフスタイル研究所
	40	神奈川	海×TECHプロジェクト実行委員会
	41	神奈川	海の森・山の森事務局
関東	42	神奈川	エバーラスティング・ネイチャー
	43	神奈川	おさかなパストの会
	44	神奈川	暮らし・つながる森里川海
	45	神奈川	小網代野外活動調整会議
	46	神奈川	サーフライダーファウンデーションジャパン
	47	神奈川	浜っ子トラストチーム
	48	神奈川	BlueArch
	49	神奈川	ほのぼのビーチ茅ヶ崎
	50	神奈川	ヨコハマ倉造空間
	51	新潟	高根フロンティアクラブ
中部	52	新潟	新潟水辺の会
	53	新潟	ねっとわーく福島潟
	54	富山	金山里山の会
	55	富山	福光ふるさと森を再生する会
	56	石川	金沢エコライフ事業実行委員会
	57	福井	アマモサポーターズ
	58	山梨	えがおつなげて
	59	山梨	ゼロファクトリー
	60	長野	ステップアップゼミ
	61	岐阜	MY
近畿	62	岐阜	大雪山を愛する会
	63	静岡	浜松NPOネットワークセンター
	64	静岡	はるの山の楽校
	65	愛知	ClearWaterProject
	66	愛知	虹のとびら
	67	愛知	ネイチャークラブ東海
	68	三重	海っ子の森
	69	滋賀	神山区い顔づくり委員会
	70	滋賀	清水川湧遊会
	71	滋賀	たかし有機農法研究会
近畿	72	滋賀	旅するおさかなサポーター
	73	滋賀	家棟川流域観光船
	74	滋賀	夢工房
	75	京都	川と海つながり共創プロジェクト
	76	京都	水源の里連絡協議会
	77	京都	プロジェクト保津川
	78	京都	ほたる祭改善プロジェクト委員会
	79	大阪	大阪みどりのトラスト協会
	80	大阪	環境教育技術振興会
	81	大阪	花だんごネットワーク
近畿	82	大阪	ふくてつく

これまでの助成先団体一覧(国内)



	No.	活動地	団 体 名
近畿	83	兵庫	アンピシャス コーポレーション
	84	兵庫	松蔭高等学校 Blue Earth Project
	85	兵庫	高砂海浜公園海辺の保全集いの会
	86	兵庫	「峠池」を考える会
	87	兵庫	武庫川の治水を考える連絡協議会
	88	奈良	景観ボランティア明日香
	89	奈良	自然再生と自然保護区のための基金
	90	和歌山	ゴミンゴ・ゴミ拾いネットワーク
	91	鳥取	山王さん周辺活性化協議会
	92	島根	飯梨川再生ネット
中 国	93	島根	千鳥のお堀を学ぶ会
	94	岡山	水島地域環境再生財団
	95	広島	大羽谷川流域の環境を考える会
	96	広島	京橋川かいわい あしがるクラブ
	97	広島	酒屋地区自治会連合会
	98	広島	古川トンボしらべ隊
	99	広島	モリメイト倶楽部Hiroshima
	100	山口	小串ヤマグチサンショウウオ保護・保存会
	101	徳島	川塾
	102	徳島	環境とくしまネットワーク
四 国	103	香川	クリーンオーシャンアンサンブル
	104	愛媛	エコ・ライフ夢幻村
	105	愛媛	久保・脇川源流を想う会
	106	愛媛	宮前川クリーンネット
	107	高知	こうち森林救援隊
	108	高知	しまんと黒尊むら
	109	高知	ジンド池生物研究所
	110	高知	大正中津川「やまびこ会」
	111	高知	橘若者会
	112	高知	西土佐環境・文化センター 四万十楽舎
九 州	113	福岡	アクアリング委員会
	114	福岡	遠賀川流域住民の会
	115	福岡	改革プロジェクト
	116	福岡	香月・黒川 ほたるを守る会
	117	福岡	笹尾川水辺の楽校運営協議会
	118	福岡	津古ふるさと会
	119	福岡	つやぎき干軒いきいき夢の会
	120	福岡	中谷地区まちづくり協議会
	121	福岡	東朽網校区まちづくり協議会
	122	福岡	火山里山保全交流会
	123	福岡	ふくおかFUN

これまでの助成先団体一覧(海外)



	No.	活動地	団 体 名
	1	インド	ICA文化事業協会
	2	インド	ウォーターエイドジャパン
	3	インド	Deepak Foundation
	4	インド	日本水フォーラム
	5	インドネシア	オイスカ
	6	インドネシア	日本インドネシアNGOネットワーク
	7	カンボジア	World Assistance for Cambodia and Japan Relief for Cambodia
	8	中国	環境資源保全研究会
	9	中国	ひふみや【自然農法】
	10	ネパール	ウォーターエイドジャパン
海 外	11	ネパール	ミランクラブジャパン
	12	バキスタン・イスラム	難民を助ける会
	13	パグダジャ	シェア・ザ・プラネット
	14	パグダジャ	日本下水文化研究会
	15	東ティモール	ウォーターエイドジャパン
	16	フィリピン	アジア協会アジア友の会
	17	フィリピン	イカオ・アコ
	18	フィリピン	ゴーシェア
	19	フィリピン	ハロハロ
	20	フィリピン	フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

	No.	活動地	団 体 名
	21	ベトナム	国際開発救援財団
	22	ベトナム	国際海洋科学技術協会
	23	ベトナム	プラン・インターナショナル・ジャパン
	24	ミャンマー	アジアチャイルドサポート
	25	ミャンマー	オイスカ
	26	ミャンマー	ブリッジ エーシア ジャパン
	27	ラオス	国際連合ハビタット福岡本部
	28	ウガンダ	コンフロントワールド
	29	ウガンダ	難民を助ける会
	30	ウガンダ	道普請人
海 外	31	エスワティニ	ウォーターエイドジャパン
	32	エチオピア	ホープ・インターナショナル開発機構
	33	ケニア	STAND ALIVE
	34	ケニア	Team NAKUSCO(長崎ケニア住血吸虫症制圧大作戦)
	35	ケニア	難民を助ける会
	36	ケニア	フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
	37	ケニア	道普請人
	38	スーダン	ホープフル・タッチ
	39	スーダン	ロシナンテス
	40	モザンビーク	モザンビークのいのちをつなぐ会

TOTOグループが取り組む環境貢献活動

TOTOグループでは、日本におけるTOTO水環境基金以外にも国内・海外で

様々な環境貢献活動を行っています。主な取り組みをご紹介します。

中華環境保護基金会 TOTO水環境基金

2008年に中国における「TOTO水環境基金」として設立し、これまでに孤児院への商品寄付や水環境に関する教育、大学生への奨学金支給、給水設備建設支援など、中国大陸における節水・水資源の保全に寄与してきました。

2021年には中国民政部主宰のメディア団体である公益時報から中国での優秀なCSR活動企業として「2021中国企業社会責任觀察報告」優秀事例に入選しました。



植樹活動

日本では「TOTOどんぐりの森づくり」を2006年に開始。社員が自分たちの手で拾ったどんぐりを職場や家庭などで育てて森に返し、地域の皆様のご協力のもと植樹後も草刈りなどを行っています。また、海外グループ会社でも、植樹活動を定期的実施し、環境保護への貢献に加え、社員とその家族の環境保護意識の向上を図っています。



小学校向け節水授業

地域の小学校に出前授業を行い、身近な生活での節水が、地球環境や水資源の保全に加え、CO₂削減につながることを学んでもらう環境教育を行っています。



清掃活動

TOTOグループでは世界中の拠点で周辺清掃を実施しています。清掃活動を通じて、その地域で事業活動をしている感謝の気持ちをあらわすとともに、海洋ごみの多くが陸地からのごみとなっているということをグループで共有し、海洋ごみの削減という目的意識も持って、地球環境の保全に貢献しています。

